

# 伊勢商人の俳諧文化と蔵書形成

— 津市石水博物館蔵俳諧一枚摺仮目録 —

The Haikai culture and library composition of Ise merchants: Temporary catalog of Haikai Surimono owned Sekisui Museum

キーワード：俳諧一枚摺 石水博物館 蔵書形成

## 一、はじめに

俳諧一枚摺とは、俳諧の大衆化とともに広くおこなわれた俳人間の交流、挨拶の具である。基本的には配りもので、一枚の料紙に句や絵を摺り込んで袋におさめられて先方に届けられた。近年、その価値が再認識されて雑誌で特集が組まれたり<sup>一</sup>、所蔵館での展示で紹介されたりした。また、所蔵されている俳諧資料によって時代や地域の文化を見る「俳諧文化」研究が提唱されて資料調査が進んでいる<sup>二</sup>。

宝永から弘化までの年代の一枚摺が愛知教育大学附属図書館にあり、画像と共に公開されている<sup>三</sup>。筆者もデータベース作成に関わったが、大名から役者まで様々な人々の名前が出てくる。大名俳諧に関わる一枚摺が真田宝物館<sup>四</sup>、八戸市立図書館などにあり、大阪府立中之島図書館には、天保から明治にかけて梅室門俳諧師岸田素屋が集めた『萬色一睨』<sup>五</sup>という七冊の一枚摺集があり、早稲田大学図書館には、『俳諧一枚摺の世界』<sup>六</sup>にまとめられたもの他、雲英文庫所蔵のものがあると

いう。近代に入って収集されたものとは異なり、地域によって残された俳諧資料にはその場所ならではの特色があり、その地での俳諧文化の存在を見ることが出来る。

石水博物館に所蔵されている俳諧資料は、伊勢の豪商であった川喜田家と長井家当主が実際に関わったものである。資料の年代が享保から明治までと広く、両家は同じ伊勢にあっても津と松坂という俳壇の成り立ちや傾向が異なる地域にあるため、伊勢商人の俳諧活動について幅広い傾向をうかがい知ることが出来る。

石水博物館所蔵の一枚物は演劇・祭礼・世相風俗・俳諧など種類が豊富なおおよそ三千点程と数も多い。一枚物の目録化調査はまだ途中であるが、石水博物館所蔵資料では、すでに科研費調査により書簡目録<sup>七</sup>が出来ており、書冊の目録も公開をめざして準備中である。俳諧資料として書簡・書冊・一枚摺の三方面からの検討が可能となるものであるため、未定稿ではあるが俳諧関連の資料の目録を紹介することには

早 川 由 美

HAYAKAWA Yumi

意義があると考ええる。

## 二、石水博物館俳諧資料の特色

石水博物館の俳諧一枚摺及び蔵書は、伊勢津の豪商であった川喜田家と松坂の豪商であった長井家所蔵のものから出来上がっている。本稿で紹介する石水博物館の俳諧一枚摺については、すでに「伊勢商人長井五鈴の俳諧活動—嘉永三年『鍾秀帖』と俳諧一枚摺—」として一部を紹介したことがある<sup>8</sup>。同館の一枚物の多くは、芝居や災害、祭礼などに分類されて台紙に貼付され、番号を付した箱に保管されている<sup>9</sup>。俳諧一枚摺は、歳旦などの摺物、見立番付、引札などと一緒に四六と七五の箱に収められている。先に紹介した長井五鈴関連の一枚摺はこれらの箱に収められていた。

さらに、その後の調査で、『川喜田家歴史資料目録』<sup>10</sup>中や書冊調査対象資料の中にも、俳諧一枚摺が存在することがわかった。川喜田家・長井家のそれぞれに関わる俳諧資料が存在しているわけである。石水博物館の整理番号により、その所在を簡単にまとめると次のようになる。

- 箱46、75 長井家伝来の俳諧一枚物（歳旦・春興など発句集、見立番付、引札など）
- 箱74 長井家伝来の芝居関連一枚物中の発句一枚摺
- 274 書冊調査時に確認された長井家俳諧資料中の一枚摺
- Ⅲナ 川喜田家歴史資料目録中「Ⅲナ」の俳諧一枚摺
- 反 川喜田家歴史資料目録中の両面反古帖中の俳諧一枚摺<sup>11</sup>

このように、整理番号ではば伝来が確認できるため、当主の文芸活動と合わせて検討することができる。それぞれの一枚摺の大きさであ

るが、台紙に貼る際に上下に切断されているものが多く、貼り交ぜの場合には他の資料が上に貼付されていたりしている。また、それぞれの調査の基準が異なったため、今回の一覧には掲載していない。先に述べた挨拶の具としての一枚摺以外にも、番付や引札なども一枚摺として目録にまとめた。

双方の当主の文芸活動の特色については、「石水博物館蔵資料を中とした伊勢商人の文化サロンに関する総合的研究 研究成果報告書」において概説した<sup>12</sup>。その中で俳諧一枚摺に関わると考えられる六人の当主と、その活動時期に合わせて俳諧一枚摺の時代区分を次のように設定することにした。

第1期 川喜田家九代爾然・十代潭空（享保〜宝暦）

第2期 長井家新宅四代養中（明和〜寛政）

第3期 長井家十三代五鈴、川喜田家十四代石水・十五代好文（天保〜幕末）

第4期 長井家十三代五鈴（明治）

ここで取り上げた両家の当主について、その生没年と、俳人との書簡のやりとりについて、簡単にまとめておく。

### 第1期

川喜田爾然・玄無（貞享二年（一六八五）〜宝暦五年（一七五五））

羅人（九通）・千風（羅人門）（一通）・淡々（二通）

川喜田潭空・但愚（宝永六年（一七〇九）〜寛政三年（一七九一））

二日坊（十一通）・羅人（一通）・淡々（一通）・柳岡（淡々門）（一通）

久太夫宛でどちらか不明 不角（三通）

### 第2期

長井養中・桜窓（明和八年（一七七二）〜天保六年（一八三五））

『石水博物館所蔵長井家文書目録』<sup>13</sup>に養中宛俳人書簡は見当

たらない。追加調査分に、徳田椿堂（二十六通）。  
第3期

長井五鈴 （文政九年（一八二六）～明治三十三年（一九〇〇））

『石水博物館所蔵長井家文書目録』に五鈴宛俳人書簡は見当たらないが、書冊資料にある五鈴の点帖には添削を行った岱年と鼎左からの返信書簡が各一通挟み込まれている。

川喜田石水 （文政五年（一八二二）～明治十二年（一八七六））

素屋（十一通）・五世川柳（十三通）・六世川柳（二通）・黙池（五通）・湖月（二通）

川喜田好文 （嘉永四年（一八五二）～明治十二年（一八七六））  
なし

川喜田家の代々の学芸は和歌であり、俳諧に熱心に取り組んだ当主はいなかった。書簡の内容は、発句が書き添えられているものの、季節の挨拶と地域の情報などが主であり、師弟関係などは感じられない。一枚摺は書簡のやりとりのある人物と関連するものが多いが、挨拶の具として贈られたものが多いと思われる。

一方、長井家の養中や五鈴は蕉風俳諧を学び、句集を編纂するなど俳諧活動に熱心であった。岱年や鼎左の五鈴宛書簡は依頼された添削への回答であり、五鈴自身が参加した一枚摺や句集などが多くあることも俳諧活動に熱心であったことの証左となる。

### 三、第1期の一枚摺

第1期は、京嵯峨野に隠棲した川喜田九代爾然とその息十代潭空に関わる資料群である。この期間に属する一枚摺は十二点で、長井家関連の整理番号のものはなく、すべて川喜田家伝来のものと考えられる。

九代爾然は、山口羅人の享保二十一年の歳旦に千町名で登場する人

伊勢商人の俳諧文化と蔵書形成（早川由美）

物であり、羅人からの書簡は潭空宛も含めて十通存在し、京での交流も確認できる<sup>十四</sup>。しかし、爾然にとって俳諧は交流の具という程度のものであり、羅人系俳書への入集もなければ蔵書にも羅人関係のものはない。書冊にある羅人点帖『俳諧千句』（冊子17）は同封された岱年書簡から、後代の石水が祖先に関わる羅人関連書として購入したものであると思われる。羅人との交流については、書簡から千町の壬生同伴や御催に参加できなかったことへのお詫びが綴られた書簡（73―106）や他の座敷に出ているので吉文字屋で支度してから参加する連絡（73―110）などから、俳諧師の幫間的な活動が垣間見られる。吉文字屋は京島原の妓楼で、主人は興津雅因。蕪村とも親交のある俳人で、宝暦五年の爾然斎の葬儀にも参列しており、親しい関係であったことがわかる。

享保二十一年の歳旦（Ⅲナ―8）は、羅人の歳旦帖の中の千町部分のみを送ったものであり<sup>十五</sup>、他の羅人関連歳旦も丁付が見える（反1―26）ので、歳旦帖として冊子体とする他に、各自の歳旦一枚摺として挨拶として送ることがあったと思われる。他には、竿秋など淡々系の俳人たちの名前が並ぶ歳旦一枚摺がある。

十代潭空に関わる一枚摺は、二日坊宗雨に関するものである。二日坊は、爾然斎に因んだ「爾然会」を津で開催したり、芭蕉塚の建立を行うなど、津俳壇の中心人物であった<sup>十六</sup>。二日坊の句が書かれた小型一枚摺（反5―103、反4―061）や榎馬・民古を始め津の俳人たちが揃った秋興など三点がある。

以下、各期に関わる一覧表の項目の凡例を確認しておく。

「資料名」一枚摺の簡単な目録を示す。紙面から取ったもの以外は「」で囲んで示した。巻頭句の上五を取った場合は「」で示した。

「種類」内容による分類、歳旦・春興・夏興・秋興・冬興・慶賀<sup>十七</sup>他、

番付などを示した。

〔和暦〕判断できなかつた場合は空白。時期の分類は掲載人名などによって行った。

〔人名〕登場する人名を巻頭・巻軸句を中心に採用したが、伊勢・伊賀俳人などは積極的に収録した。「など」と表記した場合は他に人名がある場合である。

〔画〕描かれている内容を示した。( )内は署名の絵師名、印や文字が読めなかつた場合は(不明)とした。

〔関係者〕先に挙げた当主と来簡などで関係ある人物名を挙げた。

〔整理番号〕石水博物館の整理番号。

なお、難読文字や虫損の場合は■で示した。

【一枚摺一覽表1】

資料名	種類	和暦	人名	画(絵師名)	関係者	整理番号
享保二十一 辰	歳旦	享保二十 一年	千町・竿秋・宗阿・ 番虎・羅人など	なし	千町・ 羅人	Ⅲナ— 8
元文四己未 年	歳旦	元文四年	洛下六角 沙門慈 芳	なし	なし	反2—022
壬戌	歳旦	寛保二年	九穂・千栢・山笑・ 羅人	釣竿・魚・帽 子(恵比須 図)(不明)	羅人	反1—026
寛保三癸亥	歳旦	寛保三年	富天・半時庵・友 風・羅人・竿秋など	なし	羅人	Ⅲナ—11
歳旦	歳旦	延享二年	素嵐・竿秋・春理・ 半時庵	なし	淡々	反1—145
延享二乙丑 年歳旦	歳旦	延享二年	洋・竿秋	なし	淡々	反1—020
宝曆八戊寅	歳旦	宝曆八年	竿秋・雨行・春理	なし	なし	反1—027
歳旦戊寅	歳旦	宝曆八年	竿秋・雨行・春理	なし	なし	反1—027

癸未春 壬午暮	歳旦	宝曆十三 年	伊勢津二日坊宗雨	なし	二日坊	反1—023
暮秋	秋興		許道・二日坊・素因 など	笠・紅葉樹 (羅鳩)	二日坊	反2—087
上巳発句	春興		二日坊宗雨	笠と杖	二日坊	反1—061
秋興	秋興		羅人・大泊の旅僧・ 瓢水	紅葉柳と田 植図(なし)	羅人	反2—030
梅鶯・瓢筆鯨 〔等発句〕	その他		素嵐・来川・泉牙・ 竿秋など	なし	なし	反1—026

書籍に関しては、刊行年が第1期中であっても、その時代に求められたものかは不明である。整理番号が40番台以前の書物は川喜田傳來、250番台以降のものは長井傳來書物であると大まかに区別できる。内容は貞門系俳書から蕉門の俳書、雑俳書もある。著者に関しては淡々や二日坊に関わる書も見られる。また、『焦尾琴』(43—03・265—95、267—22)や『風俗文選』(06—40・263—09)のように、川喜田・長井双方に傳來したと思われる書物もある。

四、第2期の一枚摺

第2期は、長井家新宅四代の養中に関わる一枚摺である。養中は伊勢の椿堂門下で美緑・桜窓とも名乗って俳諧活動を熱心に行った人物である<sup>18</sup>。以下の伊勢俳壇については、岡本勝氏の著書に詳しい<sup>19</sup>。一枚摺は、伊勢俳壇に関わる人物が登場するものがほとんどである。一葉庵に迎えられた鳥酔門の鳥明に関わるものが初期に見られる他、石水博物館に傳來する多くの撰集刊行に関わった斗墨、後に一葉庵主となる滄波など松坂俳壇を形成する人々が並ぶ。その他、反2とⅢナ川の喜田資料の二枚は、どちらも二日坊門の蘿道に関わるものである。274・277などの長井家関連の書冊がまとまった箱に、斗墨篇

の歳旦帖などは十三種ほどある他、第2期関連書冊は長井家資料に固まっている。川喜田関連書冊でこの期間の刊記を持つものは、其角・嵐雪・去来の発句集や何丸の『七部集大鏡』(411-16)など蕉門関連書であり、伊勢俳人に関するものはほとんどない。

養中の師である徳田椿堂は、伊勢古市の人で名古屋の士朗門である。『枇杷園句集』(43-17、266-36)は両家の資料にあり、士朗の影響力の強さがうかがえる。

【一枚摺一覧表2】

資料名	種類	和暦	人名	画(絵師名)	関係者	整理番号
良夜・戊戌仲秋望日	秋興	安永七年	松露庵(三世烏明・百明など)	雲中の楼閣(岷江)	なし	274-68
壬寅仲春	春興	天明二年	烏明・百明(文通)滄波など	桜流水(不明)	なし	274-35
天明五巳の仲秋	秋興	天明五年	蘿道・応窟・三叩・雀など	なし	なし	反2-027
天明八申のとし	歳旦	天明八年	猿二坊・樺馬・集蟻など	なし	なし	4641
己酉のとし	春興	寛政元年	曲郎・滄波など	波に貝図	なし	7594
辛亥歳旦・一葉庵	歳旦	寛政三年	佳夕・花眠・滄波など	なし	なし	7560
春興・庚申のとし	歳旦	寛政十二年	三叩・流始・里杖・蘿道など	雲中龍野	なし	Ⅲナ-7
二日翁三十三回忌・丁卯仲夏	追善	文化四年五月	義道(黙齋)・三叩・河馬など	なし	二日坊	7563
四代目沢村宗十郎追善発句	役者追善	文化九年	訥子・源平・曙山・秀佳など	位牌	なし	7485

伊勢商人の俳諧文化と蔵書形成(早川由美)

「俳諧狂歌一枚摺」  
冬興  
文化十年  
音高・花晴・鷺之・金帆船野  
なし  
7593

俳諧四季植物名寄  
見立番  
癸酉冬  
文化十二  
橋楼瑠寛など  
完来・其成など  
なし  
7597

卯の春  
春興  
天保二年  
翠川・推己・止足など  
遠山枯木図(英仲)  
六十一  
翁養中  
7567

鳥のかへし  
春興  
川車・子得・柳絮・斗墨など  
波に龍野  
なし  
4604

探題 子の夏興  
子のとし  
度舟・柳絮・山覧・斗墨など  
なし  
4603

秋來  
秋興  
子のとし  
いせ 斗墨  
月中餅搗兔  
なし  
4634B

申のとし春一葉庵  
歳旦  
申の春  
蘇漁・滄波・風馬など  
傀儡師図  
なし  
4637

「発句四句」  
冬興  
秋拳・止足・芙蓉椿  
梅花図  
なし  
7540

古今誹諧師撰  
見立番  
文政まで  
貞徳・桃青など  
北信  
なし  
7743

長井家の書冊資料には、演劇関係の絵巻や役者評判記などがある。一枚摺の中にも、四代目沢村宗十郎追善発句(74-85)や初代嵐橘三郎(瑠寛)の俳諧狂歌一枚摺(75-93)があるのは、そうした芝居関係との付き合いからであろう。また見立番付が二枚あるが、文化十二年の番付には椿堂が載っていることが関係しているのかもしれない。

五、第3期の俳諧一枚摺

第三期は、長井五鈴と川喜田石水の双方に関わる一枚摺群である。同時代の二人は、伊勢商人として弘化年間の同じ一枚摺に名前が並ぶ

こともあるが、俳諧との関わり方は全く異なっている。<sup>二一〇</sup>

五鈴は、弘化年間伊勢で俳諧を始め、上方の岱年や鼎左に添削を受けており、江戸店での修業後伊勢へ帰国する時に、江戸を始め各地の俳人たちからの句を集めて記念集『鍾秀帖』を編集刊行するほど俳諧に熱心であった<sup>二一一</sup>。弘化二年の五鈴主宰と思われる夏興一枚摺(75-62)には多くの伊勢俳人が参加し、石水も句を寄せている。

一方、石水は、和歌や本草学などに興味関心があり、俳諧に関しては必要最低限の関わり程度であったようである。俳人である中島黙池からの書簡も、京の出来事の報告であったり、平安読書室の山本家関連である。京都旅行の際には、黙池と壬生狂言を見に出かけており、先祖の爾然齋と羅人と似たような交際の仕方であったのではないかと思われる。石水宛書簡の中に柳風狂句を提唱した五世川柳からの物が十三通あり、『しげり柳』(42-31)、『新編柳多留』(43-27、28)、『俳人百家撰』(43-37)、『絵本柳多留』(50-1)など川柳編の書冊も多い。『猿筑波集』(43-30)という石水作前句付集をまとめるなど狂句に関心を寄せていたことがわかる。

この二人の双方に関わるのが岸田素屋(文化十年(一八一三)〜明治十一年(一八七八))である。梅室門、名は礼助、松蔭ともいう。大坂では花屋庵鼎左に次ぐ俳人大家とされる。中之島図書館の素屋収集俳諧一枚摺の中には、五鈴の名前が出るものが一〇二枚。石水は二枚(嘉永五年歳旦と五鈴と共に出る弘化二年のもの)ということからも、俳諧活動における二人の関わりの違いがうかがえる。素屋はどういう考えで、双方に一枚摺を送っていたのだろうか。長井家資料には、素屋の名前も出る梅室の大判摺物が多く、川喜田家資料には小型の歳旦が多い。一枚摺の用途によって使い分けられているように見える。

川喜田十五代の好文に関わると思われる一枚摺は、細木香以が関わ

るもの(Ⅲナ-13、41)である。合歓磨好文は、興画合に関心を寄せ注釈書を作成している<sup>二一二</sup>。彼が注釈をつけた『くまなき影』の序は細木香以によるものであり、平井竹馬からの書簡に香以死亡記事が記載されており、関心の対象であったと思われる。

第3期の一枚摺は、長井家のものと思われる役者追善発句(74-46)や奉納引札、五鈴を始めとする伊勢俳人たちが入集するものが目立つ。川喜田家関連のものでは、素屋歳旦が反古帖12にまともに入っている他、大小暦や川柳関係のものなど広い意味での俳諧文化を楽しんでいたことがわかる。

以下、第3期の一枚摺の一覧を挙げる。整理番号中のA・B表記は複数資料が台紙に貼付されている場合に連番である。人名に伊勢の俳人名を積極的に拾ってある。年代特定には、注五の目録を参照した。

【一枚摺一覧表3】

資料名	種類	和暦	人名	画	関係者	整理番号
三代目坂	役者追	天保二年	秀佳・秀朝・梅善	なし	なし	7447
東三津五郎	善		幸など			
追善						
三代目坂	役者追	天保二年	秀佳・秀朝・梅善	墓碑	なし	7467
東三津五郎	善		幸・三朝・芝翫など			
追善						
五代目瀬川	役者追	天保三年	路考、山東庵、多門など	なし	なし	7446
菊之丞追善	善					
発句						
諸俳諧給	見立番	天保三辰	素芯(梅室)・鶯	なし	なし	7598
金見立	付	春	笠など			
義仲寺奉扇	夏興	天保十年	雀叟・梅室	なし	なし	反5-114
会・己亥夏		か				
天保十一年	引札	天保十一年	角亭五春大人	なし	なし	7509B
田丸天神奉納額発句合		年				

南勢亭享五 春大人評	引札	天保十一 年か	五春・昇左・蘭 阜など	なし	なし	7519A
両国葉研堀 不動尊額燈 掛替句合	引札	辛丑とし 天保十二 年か	閑酔庵宗匠・湖 月庵眺波ほか	なし	なし	4638A
草庵年籠春 季混題三句 詠辛丑	引札	天保十二 年か	碓嶺・半翠・梅 笠など	熨斗包み桶 穂鶴	なし	7515A
芭蕉翁百五 十回追福句 合四季三句	引札	天保十二 年	梅笠・桂素・小 蓑庵碓嶺・壺中 庵夜雨磨など	なし	なし	7518A
梅柳社壬寅 初春	歳旦	天保十三 年	万籟・嘯雲改め 初業・夜白など	七草図(来章)	なし	4601
壬寅夏	送別	天保十三 年	卓池・余力など	立葵図(雀堂・ 水柯印)	なし	7537
庭柯掃洛送 別申辰	送別	弘化元年	思楽・一具庭 柯・松頼など	盆上二鶴(岸 良)	なし	反7-101
乙巳の春穀 雨日	春興	弘化二年	松阪連 柳倦・ 雲屋など	銀砂子の霞か (なし)	五鈴	4623
乙巳夏	夏興	弘化二年	五鈴・雅琴・畚 麦など	波頭図(なし)	五鈴・ 石水	7562
丙午	春興	弘化三年	山月・岱年など	白砂青松図 (印あり)	なし	7568
丁未初冬	その他	弘化四年	伊勢 雅琴・岱 年など	苦木図(来章・ 写苦木)	五鈴	7558
弘化丁未岱 年奉納句	奉納	弘化四年	自来・岱年など	法螺貝図(来 章)	なし	7572
丁未岱年芳 原山奉納句	奉納	弘化四年	土佐古鳳・岱年 など	桜籠(来章)	なし	7579
正風俳人鑑 再刻	袋	弘化四年	なし	なし	なし	反7-021
正風俳人鑑 番付	弘化四丁 未年中春	梅室・一具・由 誓など	なし	なし	素屋・ 黙池	反7-023

戊申季秋	秋興	嘉永元年	京梅室・波同な ど	風神図(圭岳)	五鈴・ 素屋	7552
嘉永申春鼎 左結庵記念	慶賀	嘉永元年	草齋・北窠・亀 山・角測など	唐子遊戯琴 棋書画風揚 図	五鈴・ 素屋	7556
嘉永申春鼎 左結庵記念	慶賀	嘉永元年	梅室・鼎左など	鳳凰風図	なし	7557
戊申夏蓬陽 帰国留別	送別	嘉永元年	丁知・蓬陽など	金鯨天守虹図 (是真)	五鈴・ 素屋	7591
正風俳人鑑 番付	番付	弘化五申 年改	由誓・岱年など	なし	素屋・ 黙池	反13-056
初代松本 錦升追善	役者追 善	嘉永二年	中村歌右衛門・ 市川九藏・尾上 菊五郎など	なし	なし	7474A
西とし	夏興	嘉永二年	鼎左・二環など	鯉図(東南印)	五鈴・ 素屋	7534
文音西之春 松ばかり	春興	嘉永二年	鼎左・来節など	色紙形	五鈴・ 素屋	7535
永西仲秋廿 三日	秋興	嘉永二年	荷源・鼎左など	水辺柳図(秋 亭)	五鈴・ 素屋	7576
己酉とし・ 英泉耳順	歳旦・ 慶賀	嘉永二年	梅室・英泉など	梅花と七福神 扇図(臥春)	五鈴・ 素屋	7587
己酉春	歳旦	嘉永二年	梅室・鼎左・素 屋・閑那	如意宝珠宝船 (松陰)	素屋	反11-103
己酉	歳旦	嘉永二年	春測・素屋	雄鶏とひよこ	素屋	反12-070
十三代目 中村勘三郎	役者襲 名	嘉永三庚 戊年初夏	十三代中村勘 三郎・若太夫寿 三郎	門松とゆるわ か・三玉・衣装 箱	なし	7456A
十三代目 中村勘三郎	役者襲 名	嘉永三年	十三代中村勘 三郎・若太夫寿 三郎	新発意図 (鶴の絵の包 み紙付属)	なし	7456B
碓山留別発 句庚戌梅 柳一	送別	嘉永三年	碓山・為山など	留別人物図 (山方・水辺梅 花園(帷草)	五鈴	7542

嘉永庚戌秋	秋興	嘉永三年	可知・梢山・梅 翁三物など	茶箱・秋の七 草・鉄(孤村三 信)	五鈴・ 素屋	7545
戌の春興	春興	嘉永三年	梅室・亀湖など	三曲合奏図 (圭岳)	五鈴・ 素屋	7549
嘉永三庚戌 のとし	夏興	嘉永三年	梅室・得無など	笠職図(是真)	五鈴・ 素屋	7550
嘉永三庚戌 のとし	夏興	嘉永三年	京梅室・秀佳な ど	川辺水鳥図 (是真)	五鈴	7551
戌のはる	歳旦	嘉永三年	梅室・芝角など	二見岩図(圭 岳・庚戌試筆)	五鈴	7554
嘉永庚戌	歳旦	嘉永三年	一興・瓦村など	子の日松・山 雀玩具図(直 堂)	五鈴	7555
嘉永庚戌夏 日	夏興	嘉永三年	言山・鼎左など	漁見物図(江 海浜小社図 圭岳)	五鈴	7569
嘉永庚戌春	歳旦	嘉永三年	梅室・万千など	子犬・足跡・松 葉(是真)	五鈴	7570
嘉永庚戌秋	秋興	嘉永三年	梅室・山子など	蹴鞠奉納図 (圭岳)	五鈴	7582
嘉永庚戌晚 夏	夏興	嘉永三年	梅室・弄化など	海浜小社図 (圭岳)	素屋	7583
戌夏	夏興	嘉永三年	梅室・桃室・可 底など	漁見物図(江 鶏)	素屋	反12—008
鶏山閑亭楓 葉・庚戌	秋興	嘉永三年	子遷・錦屋・石 水・雅琴	紅葉図	石水	反12—012
五代目市 村竹之丞追 善	役者追 善	嘉永四年	市村羽左衛門・ 坂東彦三郎・尾 上梅幸・坂東し うか等	墓石図 橘紋の袋付	なし	7473A
「影ぞふて」 連句切	冬興	嘉永四年	鼎左・史梅など	なし	なし	7525A
嘉永よつの とし	歳旦	か 嘉永四年	梅室・鼎左・聰 洋など	松葉と箒	なし	7525B
亥の秋	秋興	嘉永四年	布国・其山など	雀図	なし	7543

亥の秋	秋興	嘉永四年	梅室・春暉など	綿花図雀図 (岸讓)	五鈴・ 素屋	7544 (43-1 4)
辛亥のとし	夏興	嘉永四年	梅室・百丈など	富士(臥春)	五鈴・ 素屋	7547
辛亥春	歳旦	嘉永四年	梅室・井左など	猫巫女図(芦 測)	五鈴	7565
雁風呂戯図	秋興	嘉永四年	五鈴・井左など	雁風呂戯画 (芦測)	五鈴	7573
辛亥秋	歳旦	嘉永四年	梅室・不染など	松の載る船・ 船着き場(圭 岳)	五鈴	7575
辛亥のはる	歳旦	嘉永四年	梅室・桐古など	井戸・鶏・鳥・ 裁縫女図(臥 春)	五鈴	7580
辛亥春	春興	嘉永四年	梅室・雲涯など	老武士花見番 図(圭岳)	五鈴	7581
辛亥春	歳旦	嘉永四年	哥月・芙蓉庵など	宝尺し図	五鈴	7584
嘉永辛亥秋	秋興	嘉永四年	由誓・扇守など	水辺秋草図 (圭岳)	五鈴	7585
辛亥春面八 景	春興	嘉永四年	得無・味舎など	色紙形春山遠 景図・松葉・観 世水(是真)	五鈴	7589
辛亥初冬	冬興	嘉永四年	梅室・恰々など	朝日雪持ち松 に鷹図	五鈴・ 素屋	7590
辛亥	歳旦	嘉永四年	五鈴・有節など	猪香炉図(文 鱗)	五鈴	4615
辛亥春	歳旦	嘉永四年	岱年・得無など	盃・白梅花図 (是真)	五鈴	4622
辛亥春	歳旦	嘉永四年	五鈴・得無など	烏の羽のつい た鳥よけ(是 真)	五鈴	4624
壬子春歳旦 壬子	歳旦	嘉永五年	五鈴・留木など	群鼠図(是真)	五鈴	4627
	歳旦	嘉永五年	花雪(印)	扇面形	なし	7511B



丑春	歳旦	嘉永六年	有節・梅通・蘭 圍など	象牙根付(春 翠・西川(印))	素屋	反5-110
丑のとし	歳旦	嘉永六年	蘭圃・如一松 花など	なし	なし	反2-110
癸丑春	春興	嘉永六年	遷寓・鶴瓢・香 以等	青海波模様と 添軸(是真)	なし	Ⅲナ-41
癸丑冬	冬興	嘉永六年	堂山・春商等	松葉園(宗甫)	なし	7539
癸丑霜月	引札	嘉永六年	猩々庵・狐文	なし	なし	7507B
癸丑	歳旦	嘉永六年	翁堂瓢六	瓢箪群粹(な し)	なし	7504B
癸丑春	歳旦	嘉永六年	喜来・鳩峯など	正月玩具図 (魚■印)	なし	4608
壬子	歳旦	嘉永五年	五鈴・有節など	雪持松枝図 (文鱗)	五鈴	4612
壬子暮	歳旦	嘉永五年	松陰素屋印	太刀図(素屋)	素屋	反12-034
歳旦	歳旦	嘉永五年	茂郷・素屋	宝珠図(春山)	素屋	反12-016
歳旦	歳旦	嘉永五年	鶯宿・素屋など	月影図	素屋	反12-015
子	歳旦	嘉永五年	春洲・素屋など	鼠柄熨斗袋 (霞彩)	素屋	反12-013
〔裾長き〕 (巻尾)	歳旦	嘉永五年	素屋・春芳・桜 奥・鶯宿など	群鼠図(丁斎 堂)	素屋	反12-009
子の春	歳旦	嘉永五年	閑那・春陰など	鼠・正月飾・華	素屋	反12-005
〔へし折た〕	歳旦	嘉永五年	梅室・為山など	木馬図(圭岳)	五鈴・ 素屋	7574
嘉永子春	春興	嘉永五年	梅室・眼病平癒 江平など	(三拙印)	素屋	7546
壬子						
に遊びて・	旅吟	嘉永五年	梅撰・鶴羽など	なし	なし	7526B
岩内瑞巖寺						
追善発句	善		中村歌十郎・尾 上梅幸	祇園守・甌雀 の絵入袋付	なし	7472A
「四代目中	役者追	嘉永五年	中村歌十郎・尾 上梅幸	墓石図	なし	7472A

左右合	見立番 付	安政三年 辰正月	林曹・天来・玉 水町八千房肖 左	なし	右に素 屋	7502
辰歳旦	歳旦	安政三年	月人・素屋・鼎	画上昇籠図 (東山)	素屋	反1-202
乙卯秋	秋興	安政二年	素屋・東耕など	二羽の雁(永 恭)	素屋	反1-129
乙卯冬	冬興	安政二年	芹舎・淡節・公 成・羅村など	松元図(南涯)	素屋・ 五鈴	反11-003
とし	冬興	安政二年	等裁など	(圭岳)	素屋	Ⅲナ-29
安政二乙卯	冬興	安政二年	たよ・東作・ 吟(など)	囲炉裏・棗図	黙池・ 素屋	Ⅲナ-29
安政乙卯の とし	秋興 旅吟	安政二年	守黒(松島杖曳 吟(など))	松島図(是真)	素屋	Ⅲナ-28
年	夏興	安政二年	由誓・卓郎・西 馬など	破屋に梅樹図 (■)	なし	Ⅲナ-27
安政二卯の 乙卯	追善	安政二年	香以・仙寓・香 明・物外・永機 など	干菓子・水引 図(素真)	なし	Ⅲナ-13
ひととせ	か	安政二年	香以・仙寓・香 明・物外・永機 など	干菓子・水引 図(素真)	なし	Ⅲナ-13
卯の冬	冬興ほ か	安政二年	示堂・鶴羽など 隣・素屋	裏面に鶴と鼠 (なし)	なし	4640
甲寅歳旦	歳旦	安政元年	鼎左・鶯宿・松 隣・素屋	虎玩具(松陰 戯写)	素屋	反3-067
甲寅の春	春興	安政元年	公成・李堂・一 峯ほか	宿写)	なし	反5-048
六秩自寿	慶賀	安政元年	雀叟	柳枝図(なし)	なし	反6-073
六秩自寿	慶賀	安政元年	雀叟	柳枝図(なし)	なし	反6-073
甲寅祭秋	挨拶引 札	安政元年	愛山・時雨庵	なし	判読 (宛名 難)	4633
「声一里」	春興	嘉永六年	松塘・鼎左など	玉転図(秋亭)	素屋	反5-120
癸丑春	春興	嘉永六年	曙柳・紀逸など	正月箸(是真)	なし	反5-065
甲寅有隣	追善	安政元年	有隣・春湖・富 水など	桜樹落花図 (是真)	なし	4605
一周忌	か	安政元年	愛山・時雨庵	なし	判読 (宛名 難)	4633

宴	はいかい魔	見立番	安政三年	座本・花屋鼎左	なし	狂言作	7503
ことぶき草	挨拶	安政三年	いせ菊庵老叟	白菊図(豊村)	屋	者素	7505
丙辰春	歳旦	安政三年	茶雷・龜年	松・松葉・箒	なし	なし	7526A
丙辰	歳旦	安政三年	花誦・鼎左	打ち出の小槌・大根(公圭)	なし	なし	7527A
丙辰のはる	歳旦	安政三年	露明・清谷など	山葵(鶴溪)	なし	なし	7527B
安政三丙辰	春興	安政三年	有節・鼎左など	牛車図(圭岳)	なし	なし	Ⅲ1-31
丙辰	歳旦	安政三年	芦秋・ <sup>一三四</sup> 素梅・素屋など	龍画の急須・梅花(東山)	素屋	素屋	反9-006
俳暦	歳旦	安政三年	五雀	富士山霞と昇龍空押し(俳暦大江主人(香以印))	なし	なし	反11-082
安政三丙辰	歳旦	安政三年	悠々・西馬・汲古など	白梅・龍模様印籠図(素貞)	素屋	素屋	反11-101
丙辰春	歳旦	安政三年	木鷲	梅花粹	なし	なし	反11-146
丙辰冬・中	旅吟	安政三年	鯉齋・りう五・村兒雀伊勢	駕籠(圭岳)	五代目	川柳	反1-133
巡	歳旦	安政四年	有人・ごまめ他	志岐野春色(松陰印)	素屋	素屋	反9-048
丁巳	歳旦	安政四年	鼎左・鶯宿・松隣・素屋など	惠比須・弁天・大黒(楓窓)	素屋	素屋	反1-174
巳の春	歳旦	安政四年	梅など	紅梅馬監生花(秋亭)	なし	なし	4609
戊午孟春	歳旦	安政五年	鼎左・眉山など	なし	なし	なし	7509
戊午孟春	挨拶	安政五年	壮山・春富清民など	なし	なし	なし	7509
戊午の春興	歳旦	安政五年	拙誠	宝船帆・竹馬遊びの子(梅居(拙誠印))	なし	なし	反7-014

戊之午春興	歳旦	安政五年	養仙堂	馬を引く大黒(宗祐)	なし	なし	反7-037
未の冬	冬興	安政六年	富水・文礼・松溪・梅友・五鈴	なし・金砂子	五鈴	五鈴	7501B
己未春	歳旦	安政六年	茶雷・羅村	唐草粹	なし	なし	7506B
六世川柳名	引札	安政六年	六世川柳など	柳桜図・地紋水魚図(富蛙印)	なし	なし	反9-168
弘会ひつじの弥生	慶賀	文久元年	茶雷・蟻城・羅村など	宝尺載車(魚淵)	なし	なし	4635
九日庵母堂	番付	文久二年	為山・有節など	なし	なし	なし	反10-003
古稀・辛酉	歳旦	文久三年	楽竹苑青藍・故習	なし	なし	なし	7225
正風現存名家鑑	歳旦	文久三年	貞詠・兔尺・黙池	なし	黙池	黙池	反8-076B
文久三癸亥	歳旦	文久四年	阿・半農など	鼠と注連繩(狐齋)	なし	なし	反1-076
年歳旦	歳旦	文久四年	阿・半農など	鼠と注連繩(狐齋)	なし	なし	反11-050
「男山行幸」	その他	文久三年	阿・半農など	桜に大小刀掛(狐齋)	なし	なし	反8-009
文久四甲子	歳旦	文久二年	阿・半農など	うさぎ図	五鈴	五鈴	7501A
とし	大小暦	慶応三年	富水・文礼・松溪・梅友など	散華	なし	なし	反8-031
文久四甲子	歳旦	慶応三年	小団次・権十郎・芝翫ほか	恋のゆかり(男女図)	なし	なし	反11-087
とし	大小暦	慶応四年	東風庵花雪	なし	なし	なし	反8-013
元治二丑のとし	歳旦	慶応四年	芝翫・しうか・田之助・兒雀など	扇形に紋と発句	なし	なし	反8-013
うゐたせか	歳旦・大小暦	慶応四年	芝翫・しうか・田之助・兒雀など	扇形に紋と発句	なし	なし	反8-013
い	大小暦	慶応四年	芝翫・しうか・田之助・兒雀など	扇形に紋と発句	なし	なし	反8-013
四代目市	役者追	慶応三年	小団次・権十郎・芝翫ほか	恋のゆかり(男女図)	なし	なし	反11-087
善	善	慶応四年	東風庵花雪	なし	なし	なし	反8-013
戊玉莖の開	大小暦	慶応四年	芝翫・しうか・田之助・兒雀など	扇形に紋と発句	なし	なし	反8-013
歌舞伎役者発句	その他	慶応四年	芝翫・しうか・田之助・兒雀など	扇形に紋と発句	なし	なし	反8-013

〔歳旦〕	歳旦		窓月・沙菜・ろ山・梅陰居など	舞楽図(鴈汀)	なし	4602
未の初春	歳旦	未	梅室・養瓜・梅曦など	井戸滑車図(素玉印)	五鈴	4610
〔へし折た〕	歳旦		梅室・東山・草居など	白梅團図(碧窓印)	五鈴	4613
〔松風と〕	歳旦		蘭操・鼎左など	芭蕉翁遺所花屋庵什図(秋亭)	五鈴・素屋	4614
巳の夏	夏興	巳	岱年・梅曦・雅琴・畚麦など	蚊遣り団扇図(閑額)	五鈴	4616
午の春	歳旦		梅室・梅曦・子遷・雅琴・畚麦など	梅と水引図(征助印)	五鈴	4617
故人笛三叟をおもふ	追善		岱年・月空など	葡萄酒(松峰)	なし	4621
歳旦立春	歳旦		松の屋雅琴・四好・いはは等	芸州宮島弥山猿石・松の屋所蔵(不明)	五鈴	4626
〔黄鳥の〕	歳旦		草居・鼎左など	鼠野	五鈴	4628
未の秋	秋興	未	梅室・梅曦・養瓜・畚麦など	青紅葉(文影)	五鈴	4629
〔梅汁改名〕	慶賀		鼎左・梅汁・雅琴・梅室など	白梅と青葉の花籠(洞■印)	五鈴・素屋	4630
申の春	春興	申の夏	抱節・養瓜・梅曦など	枇杷図(笠翠)	五鈴	4636
〔送り状〕	挨拶	九月廿五日	茶雷	なし	なし	7506A
残暑見舞	挨拶	七月	為山	なし	なし	7510
〔挨拶状〕	挨拶	初秋	竹涯	なし	なし	7507A
〔挨拶状〕	挨拶	十月	為山	なし	なし	7512A
〔挨拶状〕	挨拶	さつき	花海・為山	なし	なし	7512B
〔挨拶状〕	挨拶	三月	吟風	なし	なし	7513

伊勢商人の俳諧文化と蔵書形成 (早川由美)

〔挨拶状〕	挨拶		契史・未立	なし	なし	7514
〔元日老隠の新居に会して〕	歳旦		其陌・龜山・鼎左など	手長猿・梅梓	五鈴	7528
〔二見浦にて石像取得〕	その他		砺山・鼎左・いはほなど	梅花・源氏香紅梅図	五鈴・黙池	7529
〔ひととせの〕	歳旦		桃盤・霞夕・梅通など	鉢巻達磨(万年)	なし	7530
〔春の雪〕	春興		月桂・梅人・驚秋・鼎左など	名所図粹	五鈴	7533
〔瀧の音も〕	春興		素屋・荷村・光林など	雲湧野	五鈴・素屋	7536
〔けふよりは〕	歳旦		勇魚・春松・イセ雀叟・梅兄等	子の日松・熨斗(高雅)	五鈴・素屋	7548
〔除夜の灯も〕	春興		梅室・一具・為山・躬幹など	煎茶野点図(圭岳)	五鈴	7553
〔独居して〕	春興		雅琴・子遷・岱月など	帆船図	五鈴	7559
辰の夏	夏興	辰	梅室・雅琴・畚麦・四好・夜白など	渡船図(梅邨)	なし	7561
題夏瀧	夏興		畚麦・蟻扇・雅琴など	瀑布図(来章)	五鈴	7564
送庭子行伊勢	秋興		伊勢・蕉叟・雅琴・畚麦・養瓜・可庭など	菊花図(来章)	五鈴	7566
〔梅見吟行〕	旅吟		由誓・瓦村・祖郷など	子の日松・山(拙誠)	なし	7571
捧奏龍仏	追善		岱年・龍池・雅琴・子遷など	水仙椿蠟梅生水図(未詳印)	五鈴	7577
〔君が代に〕	秋興		梅室・青池・岱年・鼎左など	紅葉狩図(吞舟)	五鈴・素屋	7578

四三

「月陰や」	秋興		和集・鼎左・雅 琴・番麦など	月宮殿図(秋 亭)	五鈴・ 素屋	7386
花さくら	春興		得雅・奏龍・畚 麦など	富士図(未詳 印)	なし	7388
「へし折た」	春興		梅室・左山 <small>イセ</small> 岐城など	鳩玩具図 (啼々軒)	五鈴	7392
「待宵は」	秋興		六十六翁卦龍・ 鼎左・鶯宿など	十三人談抄図 (未詳)	五鈴・ 素屋	7395
「万歳や」	歳旦		ひさ女・一雅・ 八巢など	夫婦岩ほか扇 面図三枚(南 嶺印)	なし	7396
芽出度	歳旦		さく雄	扇 <small>扇</small> (閑樹園)		7396 <sub>α</sub>
「年賀状」	歳旦		鼎左	梅花図(言瑛)	五鈴と ま <small>(死)</small>	7348
「川堀か」	春興		一三・素屋・愚 仏など	河辺春景図 (助泊)	素屋	反3—034
「転居披露」	慶賀		素鶯・鶯宿・素 屋など	下馬札・松 (逸園素鶯)	素屋	反5—047
恵方みつ	歳旦		八巢・鼎左・五 明・菓欣など	翁初水汲図 (素真)	なし	反7—028
多摩の春	歳旦		天由	松図(雲臥)	なし	反7—036
伊勢みやげ	連句		帆船・子遷雀 叟・梅先・竹外・ 梅后	蛤図(柏園)	なし	反7—077
追善川柳引 札	引札	卯八月	五山川柳・りう こ・山楽など	西行庵図(■ 石)	なし	反9—001
巳春	歳旦	巳春	松隣・素屋	なし	素屋	反9—004
帰京祝	その他		飛川柳・春雅な ど	佃の真景(圭 岳)	なし	反9—024
春興	春興		鼎左・鶯宿・松 隣など	松樹水楼図 (東山)	素屋	反9—103
嗣号披露	引札		七世雪中庵丈 雨事鳳洲	なし	石水様 (貼紙)	反9—160 A

「箸紙の」	歳旦		梅室・閑那・一 峯・嵐岱改幻耳 章	齊羽根図(岸 章)	素屋	Ⅲナ—36
家祖百年遠 忌	追善		麦村・筍甫・粗 謙など・遠里 (和歌)	根生の木(な し)	遠里 (石水 父)	反3—076
辰年秋	秋興		篤之・天遊など	なし	なし	反11—054
「すたる音」	秋興		岱年・雀叟	なし	なし	反11—057
萬碧樓即興	春興		竹外・山月・黙 池	齒采空押し	黙池	反11—079
巳の夏	夏興	巳	蟻扇・雅琴・畚 麦・岱年・完和 鳳筵	螢の絵	石水	反11—085
「おく霜の」	春興		玉池生	くつわに松 (是真)	なし	反11—086
春興	春興		玉池生	波頭日の出 (なし)	なし	反11—093
辰の春	歳旦	辰	省々・四好	頭巾をかぶつ た男と生け花	なし	反11—143
「高名句揃」	その他		蓮・木無	角力甚九と扇 の絵(陸実)	なし	反11—144
堤梅通先生 評	引札		投句所松阪あ たご町まびす 屋	なし	なし	反11—147
「松越しに」	春興		芦行・三・イ セ梅隣など	鶏絵馬・注連 繩・松・岸天 岳	素屋	反12—004
元日子日	歳旦		春測	注連繩をなう 大黒図(秀山)	なし	反12—007
「月ヶ瀬梅 見戌の年 山ふみ」	春興	戌	春整・蘭圃・雅 琴・梅室など	月ヶ瀬梅林図 (眠堂)	なし	反12—011
「草臥た」	秋興		祖郷・為山・栄 古など	軒干菜図(虚 弼)	なし	反12—033
	秋興		歌童・東富津・ 梅室など	器図(自大)	なし	反12—064

三節	春興	清鶴樵	なし	なし	反13—057
「雪はねて」	春興	鼎左・松隣・梅 邑・万菊女など	春の山家為 山本梅邑(松 陰写)	素屋	反12—003
「瓢箪は」	歳旦	素鸚 梅室・石 堂・素屋	小松曳(松逸 園・素鸚)	素屋	反12—006
よど川舟中	秋興	松隣一雨・一 東など	淀川船行図	なし	反12—010

以下は、年次不明の引札等である。奉納冠句や懸額のための投句を募るもので、俳諧活動のあり方がよく現れている。

【第3期引札表4】

資料名	種類	人名	画	整理番号
阿波国江戸文音届け所七種	住所札	露宮園鯉勢ほか	なし	4614
阿波国文音届け所七種	住所札	夫木庵大夢ほか	なし	4615
斗麦軒奉納冠朱料四種	引札	ヨセ斗麦軒	なし	4616
名葉軒奉納冠朱料四種	引札	ヨセ七名葉軒	なし	4617
斗麦軒奉納冠朱料四種	引札	ヨセ斗麦軒	なし	4618
斗麦軒奉納冠朱料二種	引札	ヨセ斗麦軒	なし	4619
斗麦軒奉納冠朱料二種	引札	ヨセ福寿軒斗麦	なし	4620
花造軒奉納冠朱料二種	引札	ヨセ花造軒	なし	4621A
福寿軒万歳楽冠朱料	引札	福寿軒	なし	4621C
下谷長者町川瀬楼額面	引札	小篁庵・塵外舎・根之本撰	銀箔円	4622A
市ヶ谷薬師稲荷永代奉額	引札	小篁庵・吹雪庵撰	宝珠・帯	4622B
奉納岡寺山万歳楽冠朱料	引札	ヨセ斗麦軒	なし	4622C
連月五題発句合	引札	蝶舎寄生主人撰	なし	4623
開巻披露句合	引札	此中庵社中	なし	4624A
歎喜天燈榮連月次	引札	太白堂・宝雪庵・小篁庵撰	なし	4624B
子育薬師永代奉額	引札	田喜庵・臨泉亭・星喜庵	なし	4625A
有無連披露並通三■宝額面句合	引札	雪中庵・星喜庵・松寿軒・此中庵評ほか	なし	4625B
四季混題三句吟	引札	此中庵評ほか	なし	4626A
四季混題四句一組	引札	小篁庵・宝雪庵・此中庵ほか	なし	4626B

伊勢商人の俳諧文化と蔵書形成 (早川由美)

柳連披露殿むら湯楼上額面句合	引札	小篁庵宗匠判ほか	柳梓	4627A
浅草寺境内大神宮奉額月並発句合	引札	九日庵評	なし	4627B
春夏混題二句	引札	藤垣・参鶴楼判	なし	4628B
翁連納会歳籠句合	引札	知雪・古春・不及など	亀甲紋	7316A
田舎源氏員合見立二葉連披露四季乱三句合	引札	滴之・星山	源氏 車葵	7316B
前今日庵元風居士追福十八評句合	引札	田喜庵・禾木園 五世今日庵	なし	7320B
勢州津観音堂奉納額句合	引札	京都五伸庵宗匠	なし	7323B
四季四句吐	引札	田喜庵・小篁庵など	なし	7324A
「俳諧発句今人類題みやこふり集」	引札	五伸庵有節選	なし	7308
「蕉門発句類題彩花集・蒼虬翁句集・俳諧梅のしるべ」	ちらし 座候く板元	何方の本屋へも差出し御	なし	反2—010

六、第4期の俳諧一枚摺

明治期の一枚摺は長井家伝来のものがほとんどで、五鈴の元に送られてきたものだろう。一枚摺に登場する人物が、富水・春湖などに明らかに江戸期とは変化している。明治期の書冊も、富水編『遠婆石』(266—73)、『開化集』(267—47)や、唵風編『吟歩集』(266—28)などが見られ、一枚摺の交友関係が蔵書にも影響していることがわかる。

年代が明らかでない場合、絵具の紅や紫から明治と判断したものもあり、時代の変化が一枚摺にも現れている。明治三十一年の正風会會員募集や一葉庵再興披露の広告などは、明治期の俳諧をめぐる状況を表している。

【第4期の一枚摺表6】

資料名	種類	西暦	人名	画(絵師)	関係	整理番号
■禅師七 回忌追善	追善	明治二年 八月	せきを・岱水な ど	瓜図(不明)	なし	反11-001
明治甲戌第 四月	春興	明治七年	霧香・貞雪など	桜屋根・山図 (未詳)	なし	Ⅲナー35
明治丁丑年 春	歳旦	明治十年	ムサシ幻史・梅 閑など	箸と貝殻図 (百鱗)	なし	4620
癸未のはる	春興	明治十六 年	亀遊・富水など	鼓図(是真・対 柳翁)	なし	4606
おとし玉	歳旦	明治十七 年一月	陰風	西遊記初編冊 子(穂庵)	なし	7511A
蒲城正風会 会員募集 らし	ちらし	明治三十 一年	なし	なし(活字版)	なし	4642
松坂一葉庵 再興披露会 発句大寄	引札	明治三十 一年	投込所松坂愛 宕町菅松寺前 山原春曙亭	なし(活字版)	なし	7257
太郎月	歳旦	辰年一月	詢羌斎・春湖な ど	硯文具図(是 真)袋付	なし	4607
歳旦	歳旦	巳新正	雪蕉・謝徳など	童子謡図(未 詳)	なし	4611
卯初年	歳旦	卯初年	林甫・三千守な ど	白梅と椿花生 け図(林静)	なし	4618
可有老人八 十の賀	慶賀	西歳首	春湖・可有など	漆塗箱図(な し)	なし	4619
巳初冬	冬興	巳初冬	等栽・富水など	紫瑠璃杯と紅 葉図(是真)	五鈴	4625
辰の春歳旦	歳旦	辰	定甫・三千守な ど	富士に籠図 (晴斎印)	なし	4631
帰郷送別	送別	寅十二月	五鈴・富水など	矢立図(凌素 堂光我)	五鈴	4632
巳初年	歳旦		三千守・暁甫・ 等栽など	筆と筆置き、 白梅(是真)	なし	4633

亥のとし	歳旦	亥	三千守・林甫な ど	金泥枯木米 山女史)	なし	4631A
丑のとし	秋興		大和・可樵・春 拳など	葡萄唐草地紋	なし	4638
未之冬	冬興		供山・富水など	鈴繩図(是真)	なし	4639
結城神社奉 額四季発句 十家選大募 集	引札	十一月二 十五日	広蕉社発起者 総代	なし(活字版)	なし	7256
静連披露並 甚左衛門町 豊田楼掛額 四季乱題句 合	引札	霜月五日	此中庵是水・静 雪・桂翁など	なし	なし	7517A
北野天満宮 月次奉納発 句合	引札		梅花園石堂	なし	なし	7518B
根津神社大 祭中奉納秋 季乱題三句 合	引札	八月中	夜雪庵宗匠・美 蓉庵宗匠など	なし	なし	7521A
もみ依	秋興	中秋	何保叶・富水な ど	紫瑠璃杯・紅 葉(是真)	なし	7531
「七月五日 瑞巖寺に遊 んど」	夏興		東隣・耕雨など	滝(可同)	なし	7532

## 七、まとめ

石水博物館所蔵俳諧一枚摺について仮目録を作成し、そこから俳諧文化の諸相や蔵書形成について次の三点が確認できた。

1、羅人、黙池、川柳など書簡調査で京や大坂、江戸の情報伝える役割を果たしていた人々が、挨拶として一枚摺を送っていたこと。

2、他の俳諧師たちからも俳諧一枚摺が挨拶の具として届けられ、交流が確認できる俳人の書冊が文庫に存在していること。

3、第2期（明和から寛政）と第3期（天保から幕末）の伊勢俳壇の様子、他地区との交流の様子を読み取ることが可能であろうこと。

1、2を通して、俳諧一枚摺の挨拶としての役割がはっきりと確認できた。一枚摺での交流が蔵書形成にも関わっている可能性も高いので今後はより具体的に見ていく必要がある。3については、一枚摺所収句の地域性なども合わせて内容の検討が必要である。第2期あたりまでの伊勢俳壇の研究はまとまった形になっているが、第3期の伊勢俳壇資料として一枚摺と書冊及び書簡の関連を含めて調査研究報告を行う必要がある。

以上の点については、今後の課題として取り組んでいきたい。

- 一 『江戸文学』第十六号特集「江戸の出版Ⅱ」に加藤定彦「俳諧「摺物」事情―文政期上方を中心に」（一九九六年十月・ペリかん社）、同第二十五号特集「多色摺の歴史と俳諧一枚摺」（二〇〇二年六月・ペリかん社）、『文学』特集「画と文の交響―俳諧一枚摺の世界―」（二〇〇五年第二号（三・四月）・岩波書店）など。
- 二 伊藤善隆「俳諧資料の特性―近世における蔵書形態と文芸享受」という視点から」（『国文学研究資料館調査報告書』35号・二〇一五年三月）、同「近世俳諧史と大社俳壇―手銭記念館所蔵資料から見えてくるもの―」（手銭家資料を活用した江戸時代の出雲文化の発掘と再生事業―平成三十一年度出雲文化活用プロジェクト実施報告書」（二〇二〇年三月・公益財団法人手銭記念館）など。
- 三 公開ホームページ <http://www.auehb.aichi-edu.ac.jp/lib/ichimazuri/index.html>
- 四 公開ホームページ <https://kikutsuracom/ichimazuri/>
- 五 小林孔・岸本（高井）悠子編による目録が、『大阪府立中之島図書館紀要』41号から43号（二〇一二年三月～二〇一五年三月）に掲載されている。
- 六 雲英末雄監修（二〇〇一年・早稲田大学文学部）。
- 七 『伊勢商人の文化的ネットワークの研究―石水博物館所蔵書簡資料をもとに―研究成果報告書』（二〇二〇年三月・研究代表者 青山英正）に所蔵書簡目録が掲載されている。
- 八 『東海近世』18号（二〇〇九年五月・東海近世文学会）。
- 九 芝居関係一枚摺についての仮目録は、拙稿「石水博物館蔵 歌舞伎役者追善発句一枚摺考―付同館所蔵芝居関連一枚摺一覽稿―」（『名古屋芸能文化』三十一号・二〇二三年二月刊行予定）で紹介した。

- 十 『川喜田家歴史資料目録』（津市教育委員会編・平成十年三月）。
- 十一 両面反古帖の詳細な目録については商業文書を中心に現在調査中とのことである。
- 十二 拙稿「伊勢商人の文芸活動—川喜田家長井家当主を例に—」（二〇一八年）と二〇二二年度科学研究費補助金（基盤研究C）「石水博物館蔵資料を中心とした伊勢商人の文化サロンに関する総合的研究研究成果報告書」（二〇二二年三月・研究代表者岡本聡）。
- 十三 『石水博物館所蔵長井家文書目録』（国文学研究資料館編・二〇一八年三月）。なお『川喜田家歴史資料目録』中にも長井家書簡が含まれているが、そこにも俳人と目される人物からの書状は確認できない。
- 十四 拙稿「伊勢俳壇と山口羅人門—津市石水博物館蔵川喜田家資料を軸にして—」（『連歌俳諧研究』一二二号・二〇二二年三月・俳文学会）。
- 十五 拙稿「山口羅人編『享保二十一年丙辰／歳旦』中の京都役者たち」（『演劇研究会会報』37号・演劇研究会・二〇二二年五月）。
- 十六 岡本勝「二日坊宗雨とその周辺」（『近世文学論叢』二〇〇九年・おうふう）。
- 十七 注五の中之島図書館の素屋関連一枚摺の分類を参考にした。
- 十八 岡本勝「長井養中の陸奥行」（『俳文学こぼれ話』・非売品・二〇〇八年）など。
- 十九 岡本勝『近世三重の俳人たち』（二〇〇〇年・おうふう）他、前出の『近世文学論叢』中の「伊勢俳壇」、『俳文学こぼれ話』など。
- 二十 拙稿「十九世紀伊勢商人の文芸活動—長井五鈴と川喜田石水の出版活動から—」（『国語と国文学』・二〇一四年五月・東京大学国語国文学会）。
- 二十一 拙稿「伊勢商人長井五鈴の俳諧活動—嘉永三年『鍾秀帖』と

俳諧一枚摺」、注八に同じ。

二十二 拙稿「十五代政豊の文事—興画合注釈の作成—」（『石水博物館蔵資料を中心とした伊勢商人の文化サロンに関する総合的研究研究成果報告書』（二〇二二年三月）、なお『くまなき影』注釈書は『東海近世』三〇号（二〇二二年五月・東海近世文学会）に翻刻紹介した。

【付記】

本文中に、長井家文書目録に俳諧関係の書簡がないと書いた。本稿提出後、新たに調査進行中の文書資料の途中データをいただいた。その中には、第2期の養中宛椿堂書簡の他、第3期の五鈴宛鼎左書簡、第4期の五鈴宛富水書簡が、それぞれ十通程度あることがわかった。摺物情報なども書かれているが、これらの書簡の内容については別稿を期したい。